

2023年度　日本工学院専門学校

デザイン科／プロダクトデザイン専攻

デザイン研究 1

対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	角田　知義			実務 経験	有	職種	クリエイティブディレクター/デザイン学講師				

担当教員紹介

クリエイティブディレクターとして企業のCI戦略の計画、実施。地方博覧会、地方創生事業の計画、実施。各種業界団体のマーケティング調査、分析、事業提案等を行ってきました。このほか実務をふまえ、プランニング方法、アイデア創生のための「視覚思考」「記号論」「デザイン方法論」の研究、デザインと現代文化という視点から「サブカルチャー論」を研究、講義を担当。これらの経験から得られた知識を基礎にして授業を行っています。

授業概要

長い歴史を持つ造形の世界の多様性を理解する。本授業は現代デザインが育ち始めた19世紀からスタートします。19世紀には、よく知られている「印象派」が革命的な表現改革を成し遂げます。この時代の出来事を紐解きながら、私たちが現在持っている美術の基本的な概念「美しさ」や「美術らしさ」「見る事への探求心」「意味をかたちづくる」「イメージ」「記号」「造形する技術」等、美術とデザインが持つ同じ課題に対して、過去の著名な作家達がいかに「イノベーション」を起こし、新しい表現、創造を生み出してきたのかという事を事例を参照しながら学びます。

到達目標

人類が「道具」を使い始めた時点でイメージやメッセージを定着させる思考や技術は存在していた。我々が培って来た文明の中で創造力の存在とその役割を知ることは「文明、文化、歴史、ビジネス」への深い理解にも繋がって行きます。西洋で価値観が大きく変わるルネッサンス、更に社会の構造が大きく変わる近代以降、社会制度や産業構造が変わるその中で美術もデザインも私たちの生活に取り入れられて来ます。歴史的な推移のなかで「社会、文化、産業、美術、デザイン」の関わりを西洋と日本からの２つの視点で見ると「現代の美術とデザインの理解を深める」ことを目標とします。

授業方法

講義形式、必要に応じて参考資料を配布する。毎回、授業の振り返りを必ず提出、授業の理解度を確認いたします。
また、講義内容に即したテーマを出題いたします、毎週の課題レポートを作成し提出することで知識を更に深める事を目指します。

成績評価方法

学期末最終レポート	40%	学期末のレポート、課題を出題いたします。
毎週の課題レポート	50%	毎時間、講義テーマに即した課題を出しますので、調査、整理して提出してください。
授業振り返り	5%	毎時間、授業内容を振り返りまとめを時間内に提出します。
受講態度	5%	出席状況、遅刻の有無、受講態度を評価いたします。

履修上の注意

授業に集中してノートをとることが必要です。
各自の理解度の確認、理解の補助のために、毎時間、講義内容に対する質疑応答を含む「授業の振り返り」を記入します、授業時間終了時に必ず提出すること。
授業時数の４分の３以上出席しない者は評価を受けることができない。

教科書教材

必要に応じて、授業にて資料配布を行う。
参考文献・参考資料等は授業中に指示をする。

回数	授業計画
第1回	デザインと美術の関係 １： ガイドランス、デザインから見た美術 、〈復習：デザインとアートの関係、観察力〉
第2回	デザインと美術の関係 ２： 西洋美術を学ぶための基礎知識、歴史と文明と価値観、イメージと実像
第3回	20世紀、抽象表現とデザインの時代 1： 19世紀末、印象派から（世界の近代化と美術の役割、抽象表現、抽象化の重要性）
第4回	20世紀、抽象表現とデザインの時代 2： 光との絵の関係　印象派、ポスト印象派、ジャポニスム、写真機、写真の存在
第5回	20世紀、抽象表現とデザインの時代 3： 大きな改革 1、新しい色と関係　フォービズム

2023年度 日本工学院専門学校	
デザイン科/プロダクトデザイン専攻	
デザイン研究 1	
第6回	20世紀、抽象表現とデザインの時代 4: 大きな改革 2、かたち、対象の捕らえかた キュビズム
第7回	20世紀、抽象表現とデザインの時代 5: 20世紀、新しい時代の表現を探る 構成主義、未来派ほか
第8回	20世紀、抽象表現とデザインの時代 6: デザインとの接点 抽象表現とバウハウスの表現実験、シュールリアリズムなど
第9回	よりよく西洋美術を理解するための基礎知識 1: 古代美術から「美」の探求、美のルール作りを理解するには
第10回	よりよく西洋美術を理解するための基礎知識 2: イコノロジー（絵を読み解く文法）、中世の美術を知る
第11回	よりよく西洋美術を理解するための基礎知識 3: 構図と色彩と透視図法（美術を構成する要素と基準）、ルネサンスの時代
第12回	日本の美術の多様さ 1: お殿様のアートと日本の芸道、家元制度、日本的創造力の基本
第13回	日本の美術の多様さ 2: 葛飾北斎、庶民のメディア・アート、江戸時代の視覚伝達
第14回	日本の美術の多様さ 3: 江戸から明治へ、西洋美術との出会いと葛藤
第15回	現代のアートとデザイン:” 現代アート” と” テクノロジー” と” 脳”